

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
山形市	飯塚・榎沢地区(飯塚、志鎌、上榎沢、下榎沢)	令和4年12月19日	令和5年3月10日

1 対象地区の現状(令和2年度アンケート結果より)

①地区内の耕地面積	231ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	170.0ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	45ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	10.9ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	26.1ha
④地区内において今後中心経営体引き受ける意向のある耕作面積の合計	27.9ha
(備考)	

注1:③の「75才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

水田の集積は進んでいる地区である。また、野菜栽培も盛んな地区であるが、後継者がいない農地等の今後の対応を検討していく必要がある。中心となる経営体は多いが(37経営体)、規模拡大意向のある経営体は少なく、集約化が課題となっていくと考えられる。
--

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

飯塚地区の農地利用は、水田については、水稻について規模拡大希望のある認定農業者(8経営体)が中心となって担うほか、畑については野菜中心の経営を行っている認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。
榎沢地区の農地利用は、水田については、集落営農組織(2組織)及び水稻について規模拡大希望のある認定農業者(10経営体)が中心となって担うほか、畑については野菜中心の経営を行っている認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
注1:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

○参考 中心経営体数

(内訳)

中心経営体数	認定農業者	認定新規就農者	集落営農組織
37	個人 30	1	2
	法人 4		

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>農地の貸付け等の意向(令和3年度)</p> <p>貸付け等の意向が確認された農地は、203筆、112, 187㎡となっている。 (飯塚地区:144筆、53, 331㎡・樺沢地区:59筆、58, 856㎡)</p>
<p>農地中間管理機構の活用方針</p> <p>将来の経営農地の集約化を目指し、出し手となる農地所有者は、原則として、農地を機構に貸し付けていく。 中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の新たな受け手への付け替えを進めることができるよう進めていく。</p>
<p>特産化作物の生産</p> <p>米、大豆等の土地利用型作物以外に、これまでも力をいれてきた、きゅうり等を中心とした野菜の生産を行っていく。</p>
<p>鳥獣被害防止対策の取組方針</p> <p>地域と行政による連携が被害拡大防止策として重要と考えられる。地域は鳥獣を寄せ付けない環境づくり、行政には侵入防止策設置補助や鳥獣被害対策実施隊と一体となった捕獲を推進していただきながら、被害防止対策を進めていく。</p>